

2019年11月8日

■アラブ首長国連邦が2020年度連邦予算を発表

九門 康之

<2020年度連邦予算>

アラブ首長国連邦(UAE)政府は、2020年度(2020年1~12月)連邦予算を発表した。歳出額614億ディルハム(167億ドル)で前年比1.8%増加し過去最大の規模である。分野別の主要支出配分先は、社会開発31%、インフラ・経済資源14%、社会福祉6.5%である。3年連続の均衡収支予算となった。

UAEが財政規模を拡大している背景は、原油価格の低下による景気の低迷にある。2014年後半以降低下した原油価格は、2016年1月に1バレルあたり31ドル台まで達した。2018年7月には70ドルに回復したもののその後再び低下し、現在は55ドル前後で推移している。実質GDP成長率は、2017年が0.49%、2018年1.73%、2019年(見込み)1.56%と低成長と続けている。政府の財政支出拡大は、経済成長の下支えを意図したものである。

<UAEの財政構造>

UAEの財政は、連邦レベルと首長国レベルの2階建て構造になっている。各首長国は独立した国として国家予算を策定し、同時に各首長国は連邦政府に対し一定割合の資金を毎年拠出する。上部機構である連邦政府の予算は、各首長国の拠出金と連邦独自の手数料収入等により編成される。2017年連邦予算のUAE全体の予算でのシェアは12%であった。アブダビ首長国が最大で全体の67%を占め、ドバイ首長国の同比率は12%、残りの5つの首長国は合計が9%であった。アブダビ首長国は連邦政府予算の約40%を拠出している。

各首長国の財政規模が異なる理由はUAE憲法にある。同23条は「各首長国において産出する天然資源は、当該首長国に帰属する」と規定している。そのため、石油ガスを豊富に産出するアブダビ首長国の財政規模が大きく、天然資源に乏しい他の首長国は小さい。資源を持たない首長国は、税金や手数料により収入を確保する。ドバイ首長国が資源が乏しいにもかかわらず一定の財政規模を確保しているのは、港湾・空港・フリーゾーンを整備して、物資や人の往来に伴う手数料収入を得ているためである。

<UAEの統治構造と連邦財政>

UAEの国家元首は大統領でアブダビ首長が就任、アブダビに所在する連邦政府が7つの首長国を統括する。連邦最高評議会傘下に内閣があり、首相にはドバイ首長が就任している。連邦政府予算は内閣の決定に従い執行される。

連邦政府は外交、通貨、軍事等各首長国の共通事項を所管し、政府の長期計画を策定する。具体例として、水の節約と利用効率向上を目指す「UAE 水安全保障戦略 2036」、食品安全保障で世界トップ 10 入りを目指す「食品安全戦略 2051」等がある。2117 年までに火星への移住を目指す計画もある。

このように、連邦政府が首長国のバランスを取って運営している国家が UAE であり、その資金源が連邦予算である。

(以上)